

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-54247

(43)公開日 平成5年(1993)7月20日

(51)IntCl<sup>5</sup>

B 6 5 D 5/66

識別記号

3 0 1 C 7445-3E

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全 4 頁)

(21)出願番号 実願平3-113175

(22)出願日 平成3年(1991)12月26日

(71)出願人 000004569

日本たばこ産業株式会社

東京都品川区東品川4丁目12番62号

(72)考案者 小林 一隆

東京都品川区東品川四丁目12番62号 日本

たばこ産業株式会社内

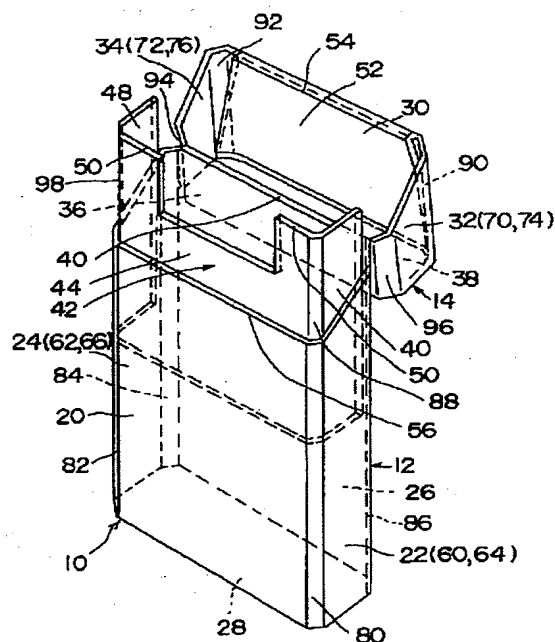
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【考案の名称】 ヒンジ蓋付パッケージ

(57)【要約】

【目的】この考案の目的は、開閉動作がスムーズで、十分な気密性及び密着力が得られるヒンジ蓋付パッケージを提供するものである。

【構成】ヒンジ蓋付パッケージ10は、インナーフレーム42を含む、パッケージ本体12とヒンジ蓋14とを有している。上記本体12と上記蓋14とは、上記蓋14が開閉される場合の回動支点としての折曲げ線40によって連結されている。上記フレーム42は、上記本体12よりも突出された領域を有し、この突出された領域に沿いつつ上記折曲げ線40を中心として上記蓋14が回動される。上記蓋14は、上記フレーム42と摺擦されることで、上記本体12と上記14との密着力及び気密性を良好な状態で維持させることのできる押圧部52を有している。この押圧部52は、上記蓋14と上記本体12との間に規定される回動角が小さくなるにつれて、上記フレーム42に向かって発生される反発力を増大するよう形成されている。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】バック本体と、

このバック本体に内挿されるとともに、自身の一部が上記バック本体から突出するよう形成され、上記バック本体に收容される内容物を保護するインナーフレームと、上記バック本体の一部を共有するとともに、この共有部に規定される折曲げ線を回動支点として回動可能に形成され、この回動動作によって、上記インナーフレームを覆うことで上記バック本体を密閉し、或いは、上記インナーフレームから離脱されることで上記バック本体から開放されるヒンジ蓋であって、このヒンジ蓋の内側面、且つ、上記インナーフレームとの摺擦面に、上記回動動作によって規定される回動角が小さくなるにつれて上記インナーフレームとの接触面積が増大するよう形成されている押圧部材を有するヒンジ蓋と、を含むヒンジ蓋付パッケージ。

【請求項2】上記押圧部材は、前記ヒンジ蓋が前記インナーフレームを覆った際に、前記バック本体と接する稜線を形成する側の辺が対向する他の一辺よりも短い略台形状に形成され、且つ、上記稜線を形成する側の辺における端部は、前記ヒンジ蓋における上記バック本体との共有部が規定される面との間に変位可能に形成された所望の隙間を介して配置されていることを特徴とする請求項1記載のヒンジ蓋付パッケージ。

【図面の簡単な説明】

\*

2

\*【図1】この考案の一実施例であるヒンジ蓋付パッケージを示す概略斜視図。

【図2】図1に示されているヒンジ蓋付パッケージの展開図。

【図3】図1に示されているパッケージのヒンジ蓋に配置されている押圧部材の特徴を示す平面図。

【図4】図3に示されている押圧部材とパッケージが開じられた状態の接触状態を示す概略図。

【図5】図3に示されている押圧部材とパッケージが開放される途中の状態での接触状態を示す概略図。

【図6】従来から利用されているヒンジ蓋付パッケージを示す概略図。

【図7】パッケージのヒンジ蓋をロックするための従来技術を示す概略図。

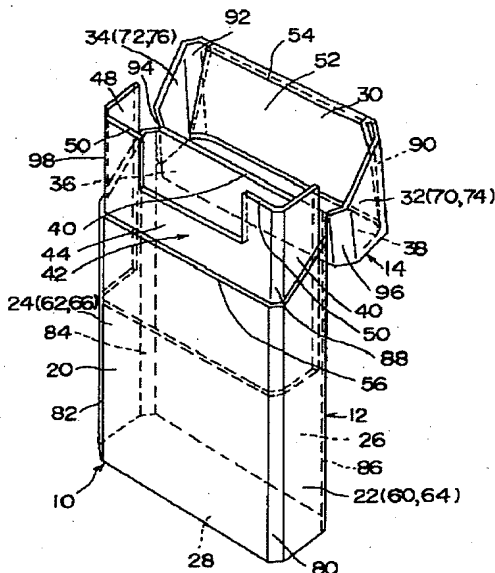
【図8】パッケージのヒンジ蓋をロックするための従来技術を示す概略図。

【図9】パッケージのヒンジ蓋をロックするための従来技術を示す概略図。

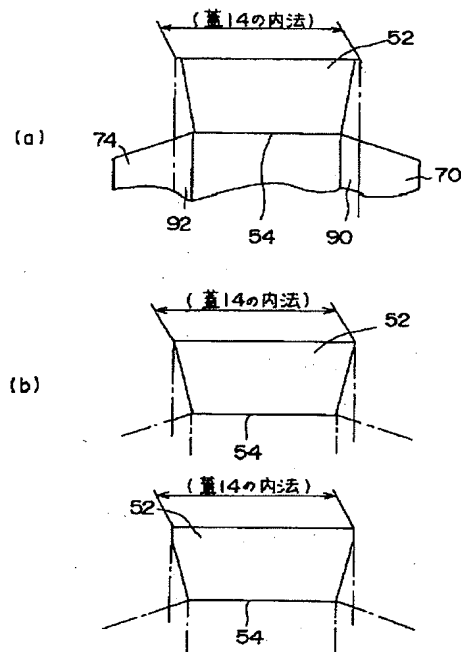
【符号の説明】

10…ヒンジ蓋付パッケージ、12…パッケージ本体、14…ヒンジ蓋、20…前壁、22、24…側壁、26…後壁、28…底壁、30…蓋前壁、32、34…蓋側壁、36…蓋後壁、38…蓋上壁、40…折曲げ線、42…インナーフレーム、44…インナーフレーム前壁、46、48…インナーフレーム側壁、50…摺擦部、52…押圧部。

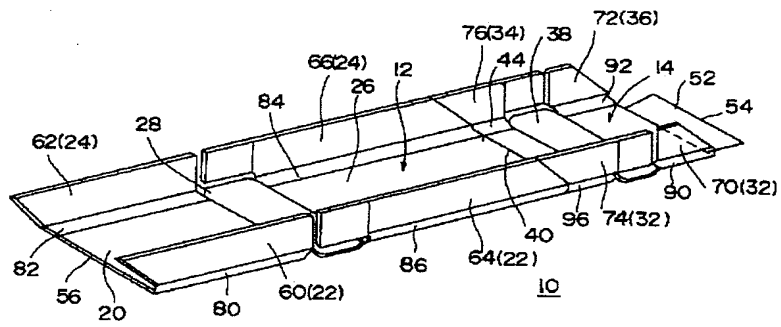
【図1】



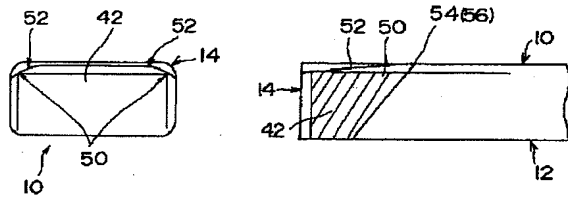
【図3】



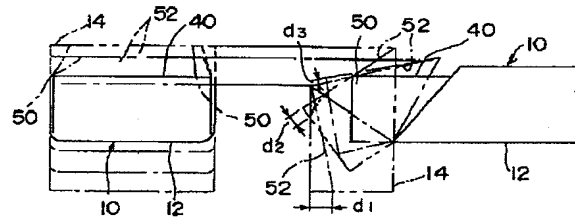
【図2】



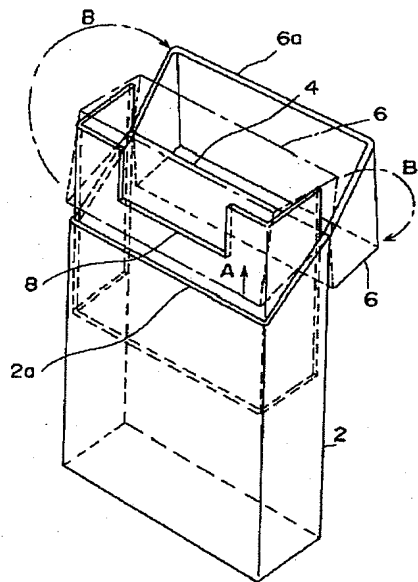
【図4】



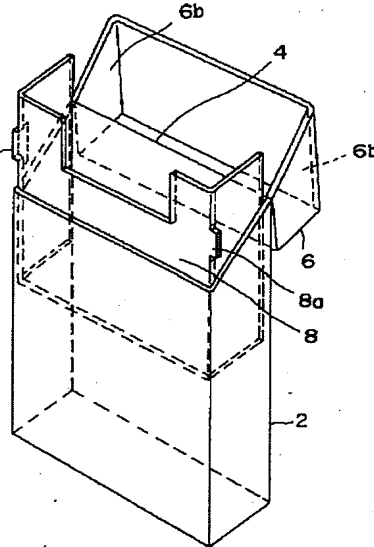
【図5】



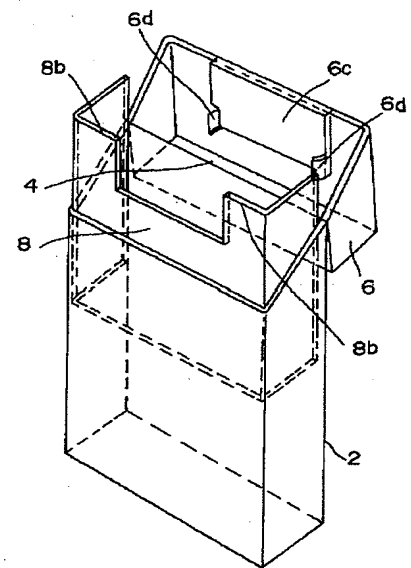
【図6】



【図7】



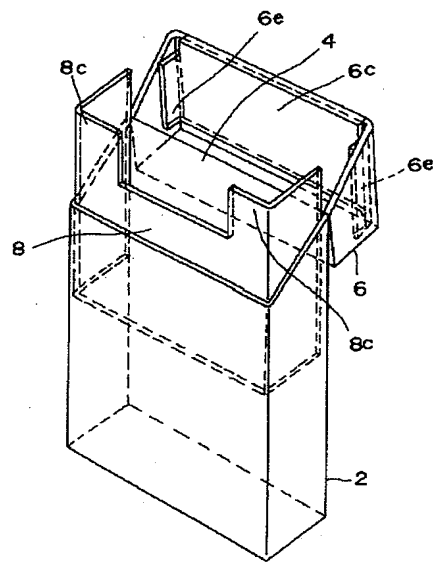
【図8】



(4)

実開平5-54247

【図9】



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

この考案は、製品を個装するための包装部材に係り、特に、一群のたばこ等を収容するために利用される、ヒンジ蓋を有するパッケージに関する。

## 【0002】

## 【従来技術】

今日、円筒状に形成された製品、例えば、たばこ或いは葉巻等を収容する包装部材として、従来からの包込みタイプに加えてボックスタイプと呼ばれるヒンジ蓋付パッケージが好評を博している。

## 【0003】

この種のヒンジ蓋付パッケージは、例えば、図6に示されているように、パッケージ本体2、折曲げ線4を介して本体2に接続されているヒンジ蓋6から構成されている。上記ヒンジ蓋6は、上記パッケージ本体2の内周に貼付られているカラー8に沿いつつ開閉可能であって、この開閉の際には、上記折曲げ線4を支点として回動可能に形成されている。

## 【0004】

パッケージに収容されているたばこが取り出される際には、ヒンジ蓋6は、カラー8に沿って矢印Aの方向に僅かに移動されつつ、上記折曲げ線4を支点として矢印Bの方向に回動されて開放される。一方、上記ヒンジ蓋6が閉じられる際には、ヒンジ蓋における稜線6aとパッケージ本体の稜線2aとが密着されるまで、上記折曲げ線4を支点として上記矢印Bと反対の方向に回動される。

## 【0005】

その一方で、上記ヒンジ蓋6が繰返し開閉された場合には、上記パッケージ本体2と上記ヒンジ蓋6との密着力が劣化されるとともに気密性が低減されることから、パッケージに収容されているたばこに吸着されている香料を蒸発させ、或いは、たばこを湿らせる虞れのあることが知られている。

## 【0006】

このことから、上記パッケージ本体2と上記ヒンジ蓋6とを密着固定させるた

めの様々な構造がこれまでに考案されている。

【0007】

例えば、図7に示されているパッケージでは、カラー 8に配置されている固定用舌片8aを介してヒンジ蓋 6の側面6bを押圧させることで、パッケージ本体 2とヒンジ蓋 6との密着力及び気密性が確保されている。また、図8及び図9に示されているパッケージでは、それぞれ、ヒンジ蓋 6の前壁面6cに配置されている切欠6dとカラー 8における頂部8bとを嵌合させることで、及び、ヒンジ蓋 6の前側面6cに設けられている裏当て（補強台紙）6eとカラー 8の頂角部8cとを摺擦させることで、図7に示されている構造と同様に、パッケージ本体 2とヒンジ蓋 6との密着力及び気密性が確保されている。

【0008】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、上記図7乃至図9に示されているような、パッケージ本体 2とヒンジ蓋 6との間の密着力及び気密性を得るための構造が利用された場合であっても、上記ヒンジ蓋 6が繰返し開閉された場合には、例えば、上記図7に示されている例では、固定用舌片8aが変形し或いは摩耗することで、上記密着力及び気密性が劣化する問題がある。

【0009】

同様に、図8に示されている例では、カラー 8における頂部8bと切欠6dとが接触することで切欠6dがカラー 8の内側にくい込んだり、カラー 8の頂部8bが折曲がることでパッケージに収容されているたばこに傷をつける虞れがある。

【0010】

一方、図9の例では、裏当て（補強台紙）6eとカラー 8の頂角部8cとの接触圧が十分に得られるものの上記頂角部8cが変形し、パッケージに収容されているたばこを変形させる虞れがある。また、この図9の例では、裏当て（補強台紙）6eとカラー 8の頂角部8cとの接触圧によってカラー 8に着色されている色が落ち易くなることから美観を損ねるとともに、十分な接触圧が得られることで、繰返し開閉されるヒンジ蓋 6の開閉動作に重圧感が生じる問題がある。

【0011】

また、上記図7乃至図9のいずれの方法が利用された場合であっても、パッケージに利用される材料（紙）に固有の条件、例えば、目方向、表面の平滑性或いは厚さ等の多くの要因によって、一定した強度を有する上記密着力或いは気密性を確保できる構造が形成しにくいことも知られている。

#### 【0012】

この考案の目的は、開閉動作がスムーズであって、しかも、十分な密着力と気密性とが得られるヒンジ蓋付パッケージを提供することにある。

#### 【0013】

##### 【課題を解決するための手段】

この考案によれば、パック本体と、このパック本体に内挿されるとともに、自身の一部が上記パック本体から突出され、上記パック本体に収容される内容物を保護するインナーフレームと、上記パック本体の一部を共有するとともに、この共有部に規定される折曲げ線を回動支点として回動可能に形成され、この回動動作によって、上記インナーフレームを覆うことで上記パック本体を密閉し、或いは、上記インナーフレームから離脱されることで上記パック本体から開放されるヒンジ蓋であって、このヒンジ蓋の内側面、且つ、上記インナーフレームとの摺擦面に、上記回動動作によって規定される回動角が小さくなるにつれて上記インナーフレームとの接触面積が増大するよう形成されている押圧部材を有するヒンジ蓋とを含むヒンジ蓋付パッケージが提供される。

#### 【0014】

##### 【作用】

この考案のヒンジ蓋付パッケージは、内部にインナーフレームを有するパッケージ本体と、このインナーフレームに沿って摺擦される押圧部を有し、回動動作によって開閉されるヒンジ蓋から構成されている。

#### 【0015】

この押圧部は、上記ヒンジ蓋の側面との間に変位可能な隙間を介して配置されるとともに、上記インナーフレームに沿って摺擦されつつ回動可能に形成され、上記ヒンジ蓋の回動動作にともなう回転角が小さくなるにつれて、上記隙間が低減されるよう構成されている。上記押圧部は、上記パッケージ本体と上記ヒンジ

蓋とが閉じられた状態では、上記インナーフレームに対して反発力を増大させることで十分な圧力を提供できるとともに、上記パッケージ本体と上記ヒンジ蓋とが開放されるにつれて、上記インナーフレームとの接触面積及び上記反発力が次第に低減されることで、上記ヒンジ蓋をスムーズに開放可能にする。

#### 【0016】

従って、僅かな力によってパッケージの開閉を可能にするとともに、開閉動作に際して重圧感を感じさせることなく確実に上記パッケージ本体と上記ヒンジ蓋とを密閉できる。

#### 【0017】

##### 【実施例】

以下、図面を用いてこの考案の一実施例を説明する。

#### 【0018】

図1及び図2によれば、例えば、図示しない一群のたばこ等を収容するヒンジ蓋付パッケージ10は、パッケージ本体12とヒンジ蓋14とを有している。このパッケージ本体12は、前壁20、一对の側壁22及び24、後壁26及び底壁28から構成されている。一方、上記ヒンジ蓋14は、蓋前壁30、一对の蓋側壁32及び34、蓋後壁36及び蓋上壁38から構成されている。

#### 【0019】

上記ヒンジ蓋付パッケージ10、即ち、上記パッケージ本体12と上記ヒンジ蓋14とは、上記パッケージ本体12の後壁26に形成されている折曲げ線40に沿って、上記ヒンジ蓋14の蓋後壁36が接合されることで連結されている。尚、実際には、図2から明らかなように、上記パッケージ本体12の後壁26と上記ヒンジ蓋14の蓋後壁36とは一体に形成され、上記ヒンジ蓋14が開閉される場合の支点として折曲げ線40が形成されている。

#### 【0020】

また、上記パッケージ本体12は、図1から明らかなように、組立てられた状態で内側となる領域に、上記ヒンジ蓋14が開閉される場合のガイドとして利用されるインナーフレーム42を有している。このインナーフレーム42は、上記パッケージ本体12が組立てられた状態で挿入されるものであって、インナーフレーム前壁



44及び一对のインナーフレーム側壁46及び48から構成されている。尚、上記インナーフレーム42の上部即ちパッケージ本体12に挿入された状態でパッケージ本体12の前壁よりも突出している領域は、上記ヒンジ蓋14が閉じられることで上記ヒンジ蓋14によって覆われる。

【0021】

上記パッケージ本体12は、詳細には、上記底壁28を中心として、上記前壁20と後壁26とが互いに対向配置された状態で、上記一对の側壁22及び24を介して接続されている。この対をなす側壁22及び24は、それぞれ、上記前壁20の両側に配置されている前側タブ60及び62と上記後壁26の両側に配置されている後側タブ64及び66とによって形成される。また同様に、ヒンジ蓋14も上記蓋上壁38を中心に、上記蓋前壁30と蓋後壁36とが互いに対向配置された状態で、上記一对の蓋側壁32及び34を介して接続されている。この対をなす蓋側壁32及び34は、それぞれ、上記蓋前壁30の両側に配置されている蓋前側タブ70及び72と上記蓋後壁36の両側に配置されている蓋後側タブ74及び76とによって形成される。尚、上記パッケージ本体12における底壁28と上記対をなす側壁22及び24とは、上記前側タブ60及び62或いは後側タブ64及び66のいずれか一方に設けられている図示しないコーナータブによって接続される。同様に、上記ヒンジ蓋14における蓋上壁38上記対をなす蓋側壁32及び34とは、上記蓋前側タブ70及び72或いは蓋後側タブ74及び76のいずれか一方に設けられている図示しない蓋コーナータブによって接続される。

【0022】

ところで、上記ヒンジ蓋14における蓋前壁30の背面には、上記インナーフレーム42におけるインナーフレーム前壁44の一部である摺擦部50が摺擦される押圧部即ち裏当て（補強台紙）52が配置されている。この裏当て（補強台紙）52は、図3（a）、（b）及び（c）から明らかなように、上記蓋前壁30における縁部54を形成する側、即ち、上記パッケージ10が閉じられた状態で上記パッケージ本体12の縁部56と密着する側が対向する他の一辺よりも短く形成された矩形状であって、上記パッケージ10が組立てられた際に、上記インナーフレーム42の摺擦部50と摺擦されることで、上記パッケージ本体12と上記ヒンジ蓋14との密着力及び気密性を良好な状態で維持させることができる。

## 【0023】

より詳細には、上記裏当て（補強台紙）52は、図4に示されているように、上記パッケージ本体12と上記ヒンジ蓋14とが閉じられた状態では、上記インナーフレーム42の摺擦部50に対して反発力を増大させることから、上記摺擦部50に対して十分な圧力を提供できる。一方、図5に示されているように、上記パッケージ本体12と上記ヒンジ蓋14とが開放されるに従って、上記摺擦部50と接触する面積が低減されることで、上記インナーフレーム42の摺擦部50に向かって発生される反発力（押圧力）が低減される。即ち、図5から明らかなように、上記ヒンジ蓋14が完全に開放された状態では、上記裏当て52と上記ヒンジ蓋14の側面との間には、十分に離間された隙間d1が規定される。また、上記ヒンジ蓋14と上記パッケージ本体12とが閉じられるにつれて、上記裏当て52と上記ヒンジ蓋14の側面との間には、上記ヒンジ蓋14の回動角が小さくなるにつれて次第に低減される隙間d2及びd3が、それぞれ規定される。この場合、上記隙間d1、d2及びd3に応じて上記反発力が増大されるとともに、上記ヒンジ蓋14が完全に閉じられた場合に最大になることはいうまでもない。

## 【0024】

このことから、上記パッケージ10即ち上記パッケージ本体12と上記ヒンジ蓋14とが開閉される場合には、僅かな力を加えるだけで上記ヒンジ蓋14と上記摺擦部50とが摺擦され、その一方で、上記ヒンジ蓋14の開閉動作に際して重圧感を感じることなく確実に上記パッケージ本体12と上記ヒンジ蓋14とを密閉或いは開放できることが確認されている。

尚、上記パッケージ本体12における一対の側壁22及び24、即ち、上記前側タブ60及び62と上記前壁20との間、及び、上記後側タブ64及び66と上記後壁26との間には、それぞれ、長手方向縁部80、82、84及び86が形成されている。同様に、このパッケージ本体における長手方向縁部の延長部を形成する上記ヒンジ蓋12における一対の蓋側壁32及び34、即ち、上記蓋前側タブ70及び72と蓋前壁30との間及び上記蓋後側タブ74及び76と上記蓋後壁36との間には、それぞれ、蓋長手方向縁部90、92、94及び96が形成されている。さらに同様に、上記インナーフレーム42におけるインナーフレーム前壁44と一対のインナーフレーム側壁46及び48との間

には、それぞれ、インナーフレーム長手方向縁部88及び98が形成されている。従って、上記摺擦部50は、このインナーフレーム長手方向縁部88及び98に形成されてもよいことはいうまでもない。

#### 【0025】

これらの長手方向縁部80乃至98は、上記ヒンジ蓋付パッケージ10の外形であって、従来上記それぞれの側壁と隣合う壁との間に形成されていた角部を除去することで、上記ヒンジ蓋付パッケージ10に収容される一群のたばこ等の形状と上記パッケージ本体12の外形とを一致させる目的で形成されている。尚、上記長手方向縁部80乃至98は、平面或いは曲面若しくは細長く形成された平面が連続的に配置された多角形面として形成される。また、上記長手方向縁部80乃至98は、上記側壁と隣合う壁との間に形成される角部の一部のみに施されてもよく、この場合には、例えば、上記パッケージ10の外形は、5角形、6角形或いは8角形等の所望の形状に形成される。このことは、パッケージ10に利用される材料を低減できるばかりでなく、パッケージ10の外観デザインの点で有益である。

#### 【0026】

上述したこの考案のヒンジ蓋付パッケージは、あくまでも一例に過ぎず、この分野の技術を有するものであれば、上記説明を基にしてこの考案をいかようにも変形できることはいうまでもない。従って、この考案は、ここに開示された実施例によって限定されるものではなく、添付の請求の範囲によってのみ制限されるものである。

#### 【0027】

##### 【考案の効果】

以上説明したように、この考案によれば、パッケージ本体とヒンジ蓋とが開放されるに従って、パッケージ本体のインナーフレームと接触する面積が低減されるよう形成された裏当てを有するヒンジ蓋が提供される。従って、十分な密着力と気密性とを有し、しかも、開閉動作がスムーズなヒンジ蓋付パッケージが得られる。このことから、一旦開封されたパッケージであっても、たばこに吸着されている香料を蒸発させ、或いは、残りのたばこを湿らせることが低減される。